

岐阜県各務原市



大学跡地につくられた「学びの森」

水と緑の回廊計画について

各務原市の「水と緑の回廊計画」は、内閣総理大臣賞や都市計画学会賞など多くの賞を受賞し、海外においても秀逸と認められ受賞している。受賞は、市民に自信と郷土愛を涵養し、また、市民主導の計画の実施により、多くの市民に愛される公園が完成した。わか町の「水・緑と観光を繋ぐ回廊計画」を顧みた時、協働の意識が十分醸成できていない。回廊計画を実り豊かなものとするためには、町民の参画・協働が重要であることを町側に提言していきたい。

愛知県新城市



地域自治区制度の説明を受ける様子

地域自治区制度について

新城市は、合併によって誕生した面積500平方キロメートルという広大な自治体である。山間部や都市部からなり、地域ごとの課題も非常に多様である。そのような中、新市長の主導で、平成25年4月より地域自治区制度をスタートさせた。この制度の特筆すべき点は、自治振興事務所の設置である。現在、各地域が自主的に予算内で地域行事などを行っているとのことで、すべて地域の自主性に委ねられており、結果として地域の自主性が醸成されつつある。今後のわか町の協働施策のありかたについて、おおいに参考となった。

静岡県掛川市



「緑の精神回廊」のルートとなる逆川(さかがわ)と掛川城

緑の精神回廊について

掛川市は日本で初めて「生涯学習のまちづくり」を宣言し、市の回廊計画「緑の精神回廊」もその一つの位置づけになっている。東海道宿場町や城下町としての賑わい、さらには生涯学習都市や歩行文化・スローライフの積極的な推進が、今回調査した緑の回廊として具現化されていると感じた。わか町の「水・緑と観光を繋ぐ回廊計画」推進にあたり、「何を点とすべきか」「住民参加の形として何が良いのか」などを考える上で、参考となる点を多々発見することができた。

福井県坂井市

学力向上施策について



教科ごとに区割りされている丸岡南中学校の教室

坂井市では、児童・生徒が早寝・早起き・朝ご飯の基本ができており、学校・家庭・地域との連携が図られていた。学校では、国・県・市などのテストを実施し、その結果を受け、課題にあった問題を先生方が作成し、基礎学力アップや理解を深める改善を図っていた。また、県では、コア・ティチャー養成事業を行い、先生の指導力向上に取り組んでいた。丸岡南中学校では県内初の教科センター方式の授業を行うなど、生きる力となる学力の育成に努めていた。今後、わか町の学力向上策の参考としたい。

地域安心ネットワークについて

新潟県妙高市

妙高市では、地域住民・地域組織・各種サービス関係者・民生委員・社協・行政などによる「地域の支えあいネットワーク」を構築し、地域安心ネットワーク推進事業を実施していた。身近で穏やかに支援をする「生活支援員」は責任感や義務感にとらわれることなく、無償での見守りを行っていた。現在、725のネットワークが構築され活動をしていることは、高齢者を支える大きな力となっており、今後、わか町の見守り事業の構築に大いに参考になった。



市担当者から説明を受けている様子

高齢者の健康増進および 高齢者大学(大学院)について

長野県佐久市



高齢者大学の授業の様子

健康長寿のまち佐久市では、介護予防二次予防高齢者を対象に、75歳の方を全戸訪問し、個人の状況に合った介護予防事業を実施していた。「お達者応援団育成塾」に約600人が参加し、研修終了後、それぞれの地域で指導者として活躍している。認知症対策として認知症サポーター養成講座終了者が4,000人もおり、力強い存在となっている。高齢者大学・高齢者大学院を設置し多くの方が意欲的に学び、大学院終了者は地域で講師を務めるなど活躍しており、参考となる点が多かった。